

決算特別委員会委員長報告

ただいま議題となりました令和3年度神戸市各会計決算及び関連議案、合計25件について、委員会審査の経過並びに結果についてご報告申し上げます。

令和3年度決算は、社会保障関係経費や公債費等の義務的経費が増加した一方で、コロナ禍からの景気回復による法人市民税の増収や消費回復による地方消費税交付金の増収、さらには「行財政改革方針2025」に基づく取り組みを着実に進めたことなどから、財源対策によることなく、実質収支10億3,700万円の黒字を確保しています。また、公営企業会計においては、新型コロナウイルスの影響により減少していた水道事業会計の水道料金収入などが回復基調にあるとともに、港湾事業会計において臨海部の土地売却による特別利益があったことなどから、当年度純利益合計は30億円の黒字になりました。

しかし、今後、超高齢社会の進行に伴う社会保障関係費のさらなる増加や市税収入の減少が予測される中、「行財政改革方針2025」に基づく取り組みを引き続き着実に進めるとともに、ポストコロナ時代を見据えた施策への転換などが求められています。

委員会は、去る9月22日に決算及び関連議案の付託を受けて以来、3つの分科会を設け、9月26日から10月5日まで局別審査、さらに10月11日には市長・副市長等に対する総括質疑を行いました。

それでは、委員会審査において議論となりました主な事項について、ご報告申し上げます。

まず、市政全般に関するものとして、今後の財政運営、王子公園や都心・三宮の再整備、デジタル技術を活用したスマートシティの推進、地域コミュニティ交通、市保有資産の有効活用などについて議論がありました。

次に、施策別には、「経済・産業・観光」に関して、神戸空港の国際化、ウォーターフロント再開発、新産業の育成・集積、プレミアム付電子商品券事業、須磨海岸エリアの魅力向上などについて、

「健康・福祉・環境」に関しては、新型コロナウイルス感染症対策、コロナ後遺症への相談・支援体制、こども・若者ケアラーへの支援、障害者の就労支援、水素スマートシティの実現、2050年カーボンニュートラルに向けた取り組みなどについて、

「子育て・教育」に関しては、産後ケア事業、学童保育事業、保育・教員人材の確保や処遇改善、通園バスの安全対策、保育所・幼稚園や学校教育におけるICT利活用などについて、

「安全・安心なまちづくり」に関しては、市営住宅のマネジメント、市営交通事業の経営改善、空き家・空き地対策、土砂災害対策、防犯カメラ、地域団体活動の維持・活性化などについて、様々な議論がありました。

委員会では、このような審査の後、10月13日に意見決定を行った結果、王子公園や都心・三宮の再整備の進め方、公共施設の統廃合の進め方、市役所業務の民間委託のあり方などを理由とした反対意見もありましたが、「行財政改革方針2025」に基づく取り組みなどにより、財源対策によることなく実質収支の黒字を確保したことを評価するとともに、ポストコロナ時代への施策転換に係る財源確保など、財政状況がより一層厳しくなることが予測される中、まちの魅力と活力を高める施策を積極的に展開していくことを期待して、令和3年度神戸市各会計決算19件は認定し、関連議案6件は原案どおり承認することに決定いたしました。

以下、委員会の要望事項について申し上げます。

まず、神戸空港の国際化についてであります。

神戸空港が、国際化による航空需要の拡大に対応し、経済の活性化につなげていくためには、空港機能のさらなる強化が必要です。

よって、当局におかれては、神戸空港の国際化および増便に対応するため、交通アクセスの拡充とターミナル機能の強化を含めた、ハード・ソフト両面における取り組みを進められたいのであります。

また、国際化を契機とし、陸海空の物流拠点としての機能向上および相互連携による集貨・創貨施策の推進など、ビジネス面での支援をこれまで以上に強化し、神戸経済の活性化に努められたいのであります。

次に、子育て支援等の強化についてであります。

人口減少社会が進む中、子どもが健やかに成長するまちをつくるためには、財政支援を含めた子育てしやすい環境の整備が必要です。

よって、当局におかれては、高校生への医療費助成および通学費補助、子育て世帯の負担軽減を図る学習支援事業、学童保育事業に係る補助金拡充、保育機能を持つコワーキングスペースの設置、産後ケア事業のさらなる周知など、切れ目のない子育て支援を強化されたいのであります。

次に、文化・スポーツの振興についてであります。

コロナ禍から市民とまちが元気を取り戻し、心豊かな生活を送るためには、文化に触れ、スポーツを楽しむことが不可欠であり、市民がこれらの活動に取り組むための環境が必要です。

よって、当局におかれては、神戸ならではの先駆的なスポーツ文化を醸成する意味からも、神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会の機運醸成、プロバスケットボールB1リーグ進出を目指すストークス支援などのスポーツ振興を図るとともに、神戸文化ホールの再整備にあたっては、移設後の跡地活用や新たなホールにおける子どもたちが活躍できる仕組みづくりを検討されたいのであります。

次に、市営交通事業の経営改善についてであります。

人口減少・超高齢化が進行する中、「市民の足」としての公共交通を守り存続させていくためには、これまで以上に様々な経営基盤の改善が必要です。

よって、当局におかれては、市営交通事業について、利用者の利便性をさらに向上させるとともに、地域団体や企業とともに事業を展開したり、乗車が目的となるような事業を行うなど、柔軟な発想で抜本的な経営改善に取り組まれないのであります。

以上、委員会審査の経過及び結果並びに要望事項についてご報告申し上げます。

結びに当たり、委員会運営に終始ご協力をいただきました副委員長、理事の皆様、並びに連日熱心な審査を賜りました委員の皆様にご心から敬意と感謝の意を表しまして、報告を終わります。